

核データ情報評価専門部会
データ検索システムW.G. 45年度第1回会合議事録

日時 昭和45年6月12日(金) 13:30~17:30
場所 日本原子力研究所東海研究所 V.d.G. 建屋29号室
出席者 五十嵐信一(原研), 岡本浩一(原研)
金森 善彦(原研), 川合将義(NAIG)
河原崎雄紀(原研), 栗山 実(原研, オブザーバー)
中川 庸雄(原研), 中嶋竜三(法大)
更田豊治郎(原研), 山越寿夫(船研)
吉村 富雄(船研),
配布資料 ○前回(44年度第7回)議事録
○核データに関して計算機を必要とする仕事量の推定メモ
(金森, 五十嵐, 更田提出)

議 事

1. 前回議事録確認

訂正なし

2. NEUDADA の書き換えについて

NEUDADA は PL/I, COBOL と Machine Language の三つを使って書かれていて, 完全に FORTRAN に書き換えるのは困難であることが指摘された。従って, FORTRAN への書き換えをしないで IBM360/75 に通してみるという案が出された。この案に対しては

(1) 原研の計算機が PL/I の compiler を持たないので 360/75 で Run をすることになり, 計算費がかさむ。

(2) 我々が, システムの修正を行なうことが困難になる。

等の問題点が考えられる。しかし, NEUDADA というシステムを充分に知ることに意味があるとし, 次の結論を出した。

- a PL/IのままでIBM360/75に通すこととして、IBMに発注する。予算と、時間の見積りを出してもらおう。(担当者 五十嵐)
- b aの結果を次回の会合で検討し、タイムスケジュールを立てる。
- c システムの修正は360/75でのRunの後で考える。そのときの参考のため、システムの詳しいflow chartを書いてもらう。

3. 核データ・センターの計算機について

核データ・センターで計算機を使って行なう仕事の推定量が各委員から発表された。

データの格納、検索、evaluation、文献のCompilation等の仕事について計算センターとの関連などが検討された。簡単に言えばI/Oの充実した計算機で、plotter、display装置のついたシステムといった線である。ここで討論された詳細のまとめは小グループを作って行ない、その結果を次回に提出することにした。小グループは、東海研のメンバーで構成する。

4. 次回

○7月17日(金) 東海研究所で行なう。

○議題

- NEUDADAシステムに関する今後のタイムスケジュール
- 核データ・センターで計算機を使う仕事について
- 文献検索について(栗山氏)